

プロボコリン吸入粉末溶解用100mgに係る
医薬品リスク管理計画書

株式会社三和化学研究所

(別紙様式2)

プロボコリン吸入粉末溶解用100mgに係る 医薬品リスク管理計画書 (RMP) の概要

販売名	プロボコリン吸入粉末 溶解用100mg	有効成分	メタコリン塩化物
製造販売業者	株式会社三和化学研究所	薬効分類	87729
提出年月日		令和4年7月28日	

1.1. 安全性検討事項		
【重要な特定されたリスク】	【重要な潜在的リスク】	【重要な不足情報】
呼吸困難	該当なし	小児への投与時の安全性
1.2. 有効性に関する検討事項		
該当なし		

↓上記に基づく安全性監視のための活動

2. 医薬品安全性監視計画の概要
通常の医薬品安全性監視活動
追加の医薬品安全性監視活動
該当なし
3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要
該当なし

↓上記に基づくリスク最小化のための活動

4. リスク最小化計画の概要
通常のリスク最小化活動
追加のリスク最小化活動
医療従事者向け資材（プロボコリン吸入粉末溶解用100mg 適正使用ガイド）の作成及び提供

各項目の内容はRMPの本文でご確認下さい。

医薬品リスク管理計画書

会社名：株式会社三和化学研究所

品目の概要			
承認年月日	2016年1月22日	薬効分類	87729
再審査期間	8年	承認番号	22800AMX00026000
国際誕生日	1986年10月31日		
販売名	プロボコリン吸入粉末溶解用 100mg		
有効成分	メタコリン塩化物		
含量及び剤形	1バイアル中にメタコリン塩化物 100mg を含有する、用時溶解希釈して用いる吸入製剤		
用法及び用量	メタコリン塩化物 100mg (1バイアル) に日局生理食塩液を加え溶解及び希釈し、通常 0.039~25mg/mL の範囲の適切な希釈系列の希釈液を調製する。成人及び小児ともに、調製した希釈系列を低濃度よりネブライザーを用いて吸入し、気道過敏性検査を実施する。		
効能又は効果	気道過敏性検査		
承認条件	医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。		
備考	共同開発品目名：ケンブラン吸入粉末溶解用 100mg 共同開発会社名：参天製薬株式会社		

変更の履歴
前回提出日：令和3年8月27日
変更内容の概要： 1. 「1.1 安全性検討事項」の通常のリスク最小化活動について、添付文書の項目名を修正（軽微変更）。 2. 医療従事者向け資材（プロボコリン吸入粉末溶解用100mg適正使用ガイド）の改訂（軽微変更）。

変更理由：

1. 添付文書新記載要領に基づき、添付文書の改訂を行ったため。
2. 添付文書改訂による Drug information 差し替え及びその他情報の更新のため。

1. 医薬品リスク管理計画の概要

1. 1 安全性検討事項

重要な特定されたリスク	
呼吸困難	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <ul style="list-style-type: none">・国内の臨床試験において、呼吸困難が成人喘息患者で6.7%（1/15例）、小児喘息患者で10.0%（1/10例）に認められている。また、外国で実施された臨床試験において、成人喘息患者で58.9%（33/56例）、小児喘息患者で34.6%（9/26例）に認められている。・本剤による気管支収縮作用が過度に生じた場合、重篤な呼吸困難が発現し、致命的な転帰をたどる可能性がある。・海外の市販後において、重篤な呼吸困難が1件認められている。 <p>以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・通常の医薬品安全性監視活動 <p>【選択理由】</p> <p>通常の医薬品安全性監視活動において、呼吸困難の発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・通常のリスク最小化活動として、添付文書の「1. 警告」、「11.1 重大な副作用」の項に記載して注意喚起する。・追加のリスク最小化活動として、医療従事者向け資材の作成、提供を実施する。 <p>【選択理由】</p> <p>医療関係者に対し適正使用に関する理解を促し、当該副作用の発現を最小化し、安全性の確保を図るため。</p>

重要な潜在的リスク
該当なし

重要な不足情報	
小児への投与時の安全性	
	<p>重要な不足情報とした理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内の臨床試験での小児使用例は10例であり、海外を含めても成人と比較して小児の情報が少ない。 ・市販後において、小児への使用（成人：小児＝2：1）が想定される。 <p>以上の理由により、重要な不足情報とした。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の医薬品安全性監視活動 <p>【選択理由】</p> <p>通常の医薬品安全性監視活動において、小児への投与時の副作用発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <p>なし</p> <p>【選択理由】</p> <p>現時点で特記すべき注意喚起内容はなく、新たな情報が得られた際に検討する。</p>

1. 2 有効性に関する検討事項

該当なし

2. 医薬品安全性監視計画の概要

通常の医薬品安全性監視活動
<p>通常の医薬品安全性監視活動の概要：</p> <p>副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・確認・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）</p>
追加の医薬品安全性監視活動
<p>該当なし</p>

3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要

該当なし

4. リスク最小化計画の概要

通常のリスク最小化活動	
通常のリスク最小化活動の概要： 添付文書による情報提供	
追加のリスク最小化活動	
医療従事者向け資材（プロボコリン吸入粉末溶解用 100mg 適正使用ガイド）の作成及び提供	
【安全性検討項目】 呼吸困難	【目的】 医師の監督下で、重度の気管支収縮及び呼吸機能低下に対応できる体制で、本剤を用いた検査を実施するよう注意喚起する
【具体的な方法】 MR が新規納入時に医療従事者へ提供し、説明する。	【節目となる予定の時期、実施した結果に基づき採択される可能性がある更なる措置】 安全性定期報告作成時に呼吸困難の報告状況を確認する。本結果から、リスク最小化活動の更なる強化が必要と判断される場合は、リスク管理計画を改訂するとともに資材の改訂、配布方法等の実施方法の変更、追加の資材作成等を検討する。
【報告の予定時期】 安全性定期報告書提出時	

5. 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

5. 1 医薬品安全性監視計画の一覧

通常の医薬品安全性監視活動				
副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・確認・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）				
追加の医薬品安全性監視活動				
追加の医薬品安全性監視活動の名称	節目となる症例数／目標症例数	節目となる予定の時期	実施状況	報告書の作成予定日
市販直後調査	該当せず	販売開始から6ヵ月後	終了	作成済み (2016年12月提出)
使用成績調査	200例（小児として50例）	安全性定期報告時 調査終了時 (最終解析)	終了	作成済み (2021年1月提出)

5. 2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧

該当なし

5. 3 リスク最小化計画の一覧

通常のリスク最小化活動		
添付文書による情報提供		
追加のリスク最小化活動		
追加のリスク最小化活動の名称	節目となる予定の時期	実施状況
市販直後調査	実施期間：販売開始から6ヵ月後 評価、報告の予定時期：調査終了から2ヵ月以内	終了
医療従事者向け資材 (プロボコリン吸入粉末溶解用100mg適正使用ガイド)の作成及び提供	実施時期：新規納入時 評価、報告の予定時期：安全性定期報告書提出時	実施中